

〈東京都立大島海洋国際高等学校 TEL:04992-4-0385 FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス：S8000531@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス：<http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html>



天皇皇后両陛下が大島に行幸行啓されました

2月28日（金）台風26号による大島の土砂災害お見舞いのため、天皇皇后両陛下が大島に行幸行啓されました。町役場を御訪問された際に、高校生を代表して、3年の
中溝晃弘君と鶴飼茉莉さんが、両陛下からボランティアに対するねぎらいの御言葉をいただきました。

卒業生表彰

3月1日、卒業式に先立ち、表彰状の授与式が行われました。表彰対象者は以下のとおりです。

東京都体育協会表彰 体育優良生徒

東京都高等学校文化連盟表彰 文化活動優良生徒

財団法人産業教育振興中央会賞

東京都産業教育振興会賞

全国水産高等学校長協会賞

東京都青少年赤十字メンバー卒業表彰

高校生新聞社賞

東京都高等学校野球連盟 硬式野球選手表彰者

三か年皆勤賞

三か年精勤賞

A組 新井 拓也 ・ 外山 波音 ・ 中溝 晃弘

B組 芦原 勝太 ・ 西尾 哲平

A組 川崎 海知 ・ 佐々木 結梨 ・ 芦原 裕太
沖村 翼 ・ 鈴木 信康

B組 吉澤 隼人 ・ 相川 浩快 ・ 鶴飼 茉莉

鷺尾 今日子 ・ 高木 菜由子 ・ 古谷 夏樹

前沢 拓真 ・ 山元 千緒里

卒業式

3月2日(日)第6回の卒業証書授与式が本校体育館にて行われました。卒業生代表 鵜飼茉玲さんの答辞を掲載します。

答辞

まだ着慣れないブレザーに、ドキドキしながら袖を通した三年前のあの頃…。今では、この制服もすっかり私の身体に馴染んでいます。私たち大島海洋国際高校第六期生七十一名は、本日卒業します。

寝ばけ眼でバスから降りてきた同級生と毎朝挨拶を交わした玄関。一緒にお弁当を食べ、何気ない会話をした教室。今こうして卒業式が行われている体育館でさえ、明日にはすべて思い出になるのです。今この瞬間に、高校生活すべてのものに対して愛おしさを感じています。

入学したばかりの頃、小・中学校で一緒に過ごした友人達と別れ、この学校で都内各地から来た寄宿舎生と初めて出会ったとき、通学生はものすごく緊張していました。私は隣の子に話しかけることもできず、「これから、お互いに仲良く、うまくやっていけるのだろうか」と先が思いやられ、不安でいっぱいになったことを覚えています。都内の中学校からやってきた寄宿舎生は、ドミトリイの様々な規則や、厳しい先輩方と出会い、洗濯など身の回りのことを自分でこなさなければならない初めての生活に、一日一日を乗り切るのがやっとのことでした。

そのような中、学校生活をスタートさせた私たち。日々の授業や、スポーツ大会、WBG、文化祭といった行事を通して、三年生になるころには、お互いが自主的に行動し、協力し合える関係になっていました。式根島への遠足は、海洋系も社会系も、A組もB組も関係なく、係が決まっていなくてもお互いに協力し合い、バーベキューや海水浴、島内散策を楽しみました。入学したての頃には考えられないほど、私たちの絆は深い物になっていると強く感じています。

そのような深い絆は、ここ大島海洋国際高校の特色ある高校生活によって育まれました。この学校には特徴的な授業が多く存在しますが、なかでも「海洋基礎」をはじめとした海洋科の先生方による授業や乗船実習は、三年間の思い出を語るうえで欠かせません。制服でも体操着でもない実習着に着替え、みんなでかけ声を合わせながら走った歩調の練習……。途中でかけ声が止まると最初からやり直しと指導されます。あれほど掛け声が止まる事に緊張した事はありません。

航海学習では、様々なことを学ばせていただきました。その中でも特に印象に残っている言葉があります。それは、船長が乗組員である私たちに、校訓の一つでもある、「誠実」という言葉は、実は3つの英単語に翻訳でき、その中でも本校の生徒には、是非「Honesty」つまり、「実直さ」を持った人でいてほしいとおっしゃった事です。また、航海中、船内で集団生活を送る難しさに直面しました。協力を怠れば必ずミスは起きますし、同じ時を限られた空間の中で過ごす人と人の悪い面も見えてしまいます。まさに、本校の校訓である礼節・誠実・協力が必要となる場面でした。

私たちはこのような状況の中、規律を重んじ、相手の立場を思いやって行動し、協力する事でその困難を乗り越えることが出来ました。大島丸でのこのような学習体験は、ほかの高校ではけっして学べない、社会で生きていくうえでとても大切な事だと思います。

これからの人生において私たちには多くの困難が待ち受けているでしょう。しかし、私たちは貴重な経験から身に着けた実直さを持って、逃げることなく目の前のことに前



向きに取り組んでいきたいと思います。

様々な行事をおえて、三年生も後半にさしかかり、それぞれの進路にむけて必死になっていたあの日、平成二十五年十月十六日。大島は台風 26 号による豪雨で、甚大な被害を受けました。大島の景色のなかで、元町港からジェットホイルを降りたときに見える、三原山一面の深緑が私はとても好きです。でも今は、昨年の大雨による土砂災害により、茶色の山肌が荒々しく姿を見せ、三原山のふもとの元町の一部は変わり果てています。卒業後、大島をはなれ、またこの島に戻ってくるたびに変わり果てた三原山の姿を見ると思うと心苦しいです。三年前の東日本大震災の時のように、今回の災害はいつ何が起きるかわからない不安を私たちの胸に焼き付けました。あの災害のあと、生徒の中から、ボランティアをしたいという声が多く上がり、私たちは、何度もボランティアに参加しました。現地では、住宅の床下や敷地内に溜まった土砂を一人ひとりがスコップですくい、何度も運び出しました。やってもやっても終わらない作業に、復興の難しさを感じさせられたと同時に、困っている人の為に手を差し伸べようとする人々の温かさを目の当たりにし、つらい状況の中でも胸が温かくなりました。また、日々安全で健康に生活を送ることのできるありがたみを実感しました。

友達とたのしく笑っていられること、家族に支えてもらっていること、これまで当たり前と思っていた高校生活がかけがえのないものであることに気づきました。しかし、この当たり前的高校生活から、私たちは、今日、旅立っていかなくてはなりません。

在校生のみなさん、私たちはみなさんの手本として精一杯努力してきましたが充分ではない部分があったかもしれません。ですが、この学校の校訓である誠実・礼節・協力を忘れずに、よりよい海洋国際を築き上げていってください。時間がたてばたつほどこの三年間が大切なものと感じられるでしょう。ですからみなさん限られた時間を無駄にせず充実した日々を送ってください。

そして、共に三年間を過ごしてきた同級生のみんな。この三年間、いつも近くにはみんながいて、いろんなことを分かち合ってきたね。授業中に何気ない一言で笑ったこと、実習中はお互いに励ましあったこと、毎日の昼食や休み時間に、将来や進路、恋愛や身の回りのちょっとしたことなど、たわいない話をしていたその瞬間を、今、いとおしく思ってるよ。この高校を離れ、皆と別れることが本当に寂しいです。けど、でも、こう思えるのは、皆と、ここ海国という一つの場所で、かけがえのない時間をすごしたおかげ。本当にありがとう。

先生方には日頃の授業や部活動で大変お世話になりました。

さらに、進路の相談、志望理由書の添削や面接の練習といった進路指導に、時間を惜しまず、夏休みや休日の間もご指導いただきました。一般入試を受ける生徒のために、特別に講習を開いてくださいました。学校生活や部活動の中での悩みを聞いていただいたこともありました。

このように温かくご指導してくださるすべての先生方によって、私たちはここまで成長することができました。

ドミトリーでは親代わりとして私たちを見守ってくださった、ハウスマスターの先生方、食事や施設の管理に携わってくれた職員の皆さんの援助にも大変感謝しています。

最後になりましたが、家族の皆様、本当にお世話になりました。

親元を離れたドミトリーでの生活や、長期にわたる航海実習などで、たくさんのご心配をお掛けしたことと思います。私たちはその心配を理解できず、時には自分勝手な発言や行動をし、悲しませてしまったこともあったと思います。そのような未熟な私たちを、支え、応援し続けていただいたことに深く感謝いたします。私たちは必ずみなさんから受け取った「心」を忘れずに、それぞれの進路に旅立っていきます。どうか、これからも温かく見守ってください。

私達の高校生活を支えて頂いたみなさん、本当にありがとうございました。

第六期生 卒業生代表 鵜飼茉莉



卒業生講演会

進路指導・キャリア教育部では、平成 26 年 3 月 14 日（金）、1 年生、2 年生を対象とした卒業生講演会を実施いたしました。卒業生講演会は、進路希望を実現した卒業生から体験談を聞くことによって、進路に対する意識を高め、進路実現に向けての取り組みを具体的に考える一助となることを目的として実施しています。講師としてお呼びした卒業生は 5 期生（現 1 年生は 8 期生、現 2 年生は 7 期生）の 8 名です。お呼びした卒業生の進路先は、日本体育大学・玉川大学・神田外語大学・文京学院大学・海上自衛隊・東京農業大学・東京電機大学・東京海洋大学です。講演は、進路指導部の野村先生、卒業時の担任団の山口先生の司会で進行され、インタビュー形式・パネルディスカッション形式で進行されました。講師からは、「高校生活」「大学生活」「受験校選び」「受験方法の決め方」などの体験談を伺う事ができました。講演内容も具体的・身近であり、また在学中にお世話になった先輩からの生の体験談ということもあり、生徒達は熱心に耳を傾けていました。講演をその場限りに終わせないために用意した、ワークシートにも多くのメモを取りながら、中には裏面まで使ってメモを取りながら真剣な眼差しで望む生徒たちの姿も見られ印象的でした。

講演会は午前中で終了となりましたが、昼食をはさみ、講師の控え室となった進路指導室にはその後、多数の在校生が絶え間なく訪れました。時間の許す限り、講師を囲み盛んに質問を繰り返す様子が見られ、生徒達にとって多くの収穫ある卒業生講演会となりました。



第1回海国フィッシング GP 開催！！

3 月 16 日、釣り部が中心となって計画を進めてきた釣り大会がとうとう開催された。立案から実施まで約 1 ヶ月間と言う短い期間で大会を形に出来たのは、一重に釣り部員の努力の賜物です。

当日は雨こそ降らなかったものの強風が吹くと言う、お世辞にも「釣り日和」とは言えない中での大会となった。しかし、その様な状況の中でも釣りを楽しんでもくれた参加者、大会を盛り上げてくれた部員のおかげで、無事に大会を終了することが出来ました。

今後は、この釣り大会を毎年の恒例行事にして行けたらと思っています。

